

地域の笑顔と畜産を守る、これからの臭気対策

～「また臭う…」と言わせない！今すぐ見直したい畜舎の環境改善～

家畜排せつ物法の施行により各農場で適正管理が進む一方、経営の大規模化や、施設の老朽化、農場と近隣住宅の混住化による住民の環境意識の高まりなどによって、「臭気問題」はこれまで以上に重大な課題となっています。地域の理解と愛着を持ってもらい、持続可能な経営を続けるための重要なポイントをまとめました。

そのお悩み、ひとりで抱え込んでいませんか？

「対策しても効果が出ない」「苦情が心配」等、鹿屋市では生産者に対して臭気軽減に向けた消臭資材等の支給を行っています。お悩みの方は、お気軽に市畜産課へご相談ください！

悪臭を元から断つ！今日からできる臭気対策の「基本4原則」

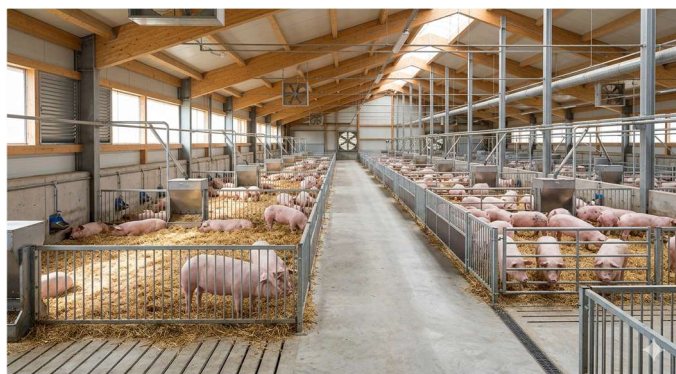
① 「ためない」が鉄則！こまめな搬出と清掃

臭いの強さは畜舎に残っている家畜排せつ物の量で決まります。処理が遅れるほど悪臭は増幅するため、「すぐ出す」「すぐ洗う」を徹底しましょう。



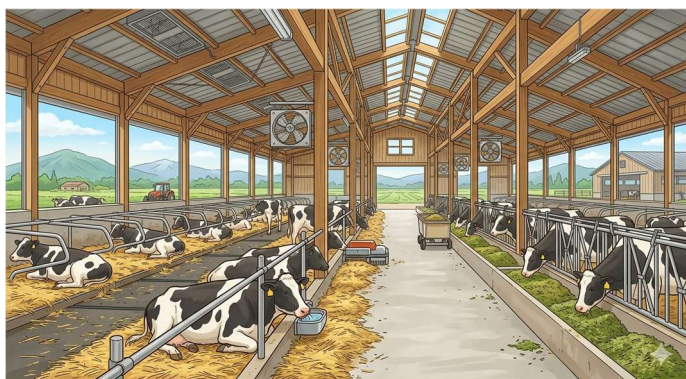
② 混ぜるな！「固液分離」と「カラカラ乾燥」

ふんと尿が混ざるとアンモニアが多く発生します。スコヤや排水溝の工夫で速やかに分離し、換気による乾燥環境をキープしましょう。



③ 敷料は十分に！臭いを吸い取る極上ベッド

十分な量の敷き込みは、家畜のストレスを減らすだけでなく、優れた「臭気吸着フィルター」となり、水分吸収による乾燥促進効果を持ちます。



④ 見えない・広がらない工夫！生け垣と畑のケア

サザンカやサンゴジュの生け垣は、臭気の拡散を和らげ目隠し効果も抜群。また、畑に堆肥を撒いた後は「すぐ耕す」のがマナーです。



※写真(イメージ)は AI により生成したものです。

🔍 畜種・施設別の弱点を狙い撃ち！ここが対策の分かれ道

対象	ここに注目！効果バツグンの対策アプローチ
 牛舎	家畜排せつ量が多いため、「毎日のふん尿搬出」や「床・溝の清掃水洗」が大切。月1回以上の消毒を行い、厚めの敷料で湿気を除きましょう。
 豚舎	決まった場所で排せつする習性を利用。床の高低差で水はけを良くする、排せつ場所を考慮し、飼槽の位置を工夫するなど、習性を活かした豚房構造とこまめな洗浄が有効です。
 鶏舎	ふんと尿が同時に排出されるためアンモニアが発生しやすい。長期堆積になりやすいため、制限給水などで「ふんの含水率を下げて、舎内で最速で乾燥させる」のが基本です。
 浄化処理施設	容量オーバーの投入は、施設の機能を低下させ、強烈な悪臭を長引かせる原因に。処理能力を超えないよう、適正量での稼働を心がけてください。

⚠️ 知らなかったでは済まされない！農場を守るための法令遵守

📖 家畜排せつ物法(管理基準)

- ・家畜排せつ物管理施設(固形状)：床を不浸透性にし、適当な覆いと側壁を設けて雨水の流入や流出を防ぐ。
- ・家畜排せつ物管理施設(液状施設)：漏れのない不浸透性の貯留槽とする。
- ・維持修繕：壁や床のヒビ等の破損は速やかに修繕する。
- ・記録保存：年間の排せつ物発生量や処理方法別の数量を記録し保存する。

💧 水質汚濁防止法(排水基準)

排水基準を守りましょう。

❌ 違反すると、6 月以下の拘禁刑又は 50 万円以下の罰金が科されます。

水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素 要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	大腸菌数	アンモニア等
5.8～8.6	120mg/L 以下	150mg/L 以下	800CFU/ml 以下	400mg/L 以下

📖 鹿屋市畜産臭気対策マニュアルを参考に対策を！

近年は畜産施設や堆肥化施設などから発生する臭気に関する苦情が増加傾向にあります。

鹿屋市では令和8年3月に「鹿屋市 畜産臭気対策マニュアル」を作成しました。

日常管理の改善や設備の見直し、地域全体で、畜産臭気問題に対応していきましょう。



地域に愛され、次の世代へ繋ぐ畜産経営へ

あなたの農場のほんの少しの意識と改善が、地域の快適な未来をつくれます。

【お問合せ・ご相談窓口】

鹿屋市役所 畜産課 畜産振興係

TEL: 0994-31-1118

FAX: 0994-44-3730